

平成 26 年 8 月 26 日

第2回茨木市文化振興ビジョン策定専門部会における意見のビジョン素案への反映

章番号	委員意見(議事録頁番号)	ビジョン素案への反映(ビジョン素案頁番号)
第1章	・ 総合計画の文化についての基本的な記述の文章が入っていない。(p.5) ・ 「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまち」という標語の標語が持つメッセージ性とはどのようなものか。(p.9) ・ 「総計との関係」の部分は、もう少し膨らませれば一層はつきりする。(p.10) ・ 初めて読む方も「みんなの“楽しい”」の意味が理解できるように、具体的に書くことが必要である(p.10) ・ 大阪や首都のように発信型にするのか、地域密着型にするのか。(p.11)	・ 「第1章2(3)第5次茨木市総合計画等との関係」を加筆。(p.2)
	・ 「民族芸能」ではなく「民俗芸能」である。(p.8)	・ 指摘通り修正。(p.4)
	・ 国の施策や大阪府のビジョンもあるが、それとの関係をどのように考えればよいのか。(p.12)	・ 「第1章2(4)文化芸術振興基本法・大阪府文化振興条例等を踏まえた策定」を加筆。(p.2)
第2章	・ 地理的な特性が芸術文化に与える影響など、そういったことをどこかに組み込めばよい。(p.5)	・ 第2章に新たに「3 地理的条件」の項目を追加。(p.10)
	・ 「茨木らしさ」についてももう少し強調しても良い。(p.6) ・ 特性を強調する時に、高槻や吹田、豊中と多少違う面を見つけて入れる。(p.7) ・ 伝説の話などは非常に面白い。茨木童子の話は誰でも知っている。具体的に1、2例あげると非常にわかりやすい。(p.7)	・ 「第2章3 地理的条件」の項目にて対応。(p.10) ・ 「第2章2(2)「いばらき童子」をはじめとした伝統資源」にて、いばらき童子の伝説を例示。(p.7)
	・ 「2 豊富な文化資源」というタイトルの割には、「(1)歴史伝統資源」も「(2)川端康成氏とのゆかり」も豊富ではない(p.14) ・ 「黒田官兵衛」に出てくるような茨木市の歴史的背景、歴史の舞台をもっとクローズアップしてもよい(p.16) ・ 載せる場合のメリットとデメリットを含めて、どのようなプレゼンテーションの仕方が一番良いのか。オプションは広めにとる。(p.17)	・ 「第2章2 豊富な文化資源」を加筆(図表、写真等も適宜追加して掲載)。(p.6)

章番号	委員意見(議事録頁番号)	ビジョン素案への反映(ビジョン素案頁番号)
	- 銅鐸鑄型が文化財資料館にあるだけではもったいない(p.22) - 取組の中に市民も参加したものをみんなで守っていくのだということを文章に入れられてもよい(p.16)	「第2章2(5)新しい文化芸術の創出」を加筆。(p.9)
第3章	(美術・現代美術等の取組について)非常に素晴らしい。歴史的に活動としての資源があると思うので、文化的特性のところでもっとスペースを取って、歴史の部分から特筆されてもよい(p.19) (市民の文化芸術団体について)いくつか具体的に、どのような活動をされているかを書いてもらえるとわかりやすい(p.24)	「第3章3 市民文化芸術団体との協働」に美術展、現代美術展の歴史等を例示。(p.13) 「第3章3 市民文化芸術団体との協働」に美術展、現代美術展を例示。(p.13)
第4章	「みんなの“楽しい”が見つかる」ということにもつながる。茨木童子ですら楽しく暮らせるということ。キャッチフレーズになり得る。(p.13) 「(3)大学等知的資源」とあるが、できればこの中に商工会議所や観光協会など、産業界との連携も書き込んでほしい。(p.15) - 川端康成の「十六歳の日記」や「私のふるさと」など、具体的な書物が残っているのであれば、それをモチーフにして現代アートや演劇ともコラボレートできる。いろいろな文化ジャンルを川端康成というテーマで切って発信していくのは、仕掛け次第で面白いことができる(p.21)	「第4章1 文化振興ビジョンの理念」を加筆。(p.16) 「第4章2(4)産学官の連携による文化芸術活動の活性化」を加筆。(p.19) (川端作品ではないが)「第4章6(2)文化芸術を活かした誘客によるにぎわい創出」において、いばらき童子と狂言の融合を例示して、コラボレーションについて加筆。(p.28)
その他	- 川端康成に「氏」がついている。「氏」はいらない(p.15) 4つの施設をグラウンドも含め一斉に使った文化展などがあっても面白い(p.22) - 既存の施設をもっとうまく利用していくと、箱モノという言われ方はしない。それこそ、古い建物を文化遺産として活用できるだろうし、また、いろいろな文化的活動の拠点になっていくのではないか。そのあたりのことを具体的に触れられないか(p.23) - 将来のことは第4章以降で、表現をどこまで具体的にするかはともかく、今のような意見を取り入れながら持っていくことになろうかと思う(p.24) - 今では、幻の委員会なのか。このような委員会を作られたということであれば、かつての歴史、今まではどうだったのかを振り返ることも必要。(p.14) - 現代の作家でどなたか市内に住んでいないか(p.21)	- 人名から「氏」を削除。 - 施設の現状については「第3章4 文化施設等の正美による活動支援」、取組については「第4章3(2)いつでも・どこでも文化芸術にふれられる環境づくり」に記載。 - 事務局より現状報告。 - 現代作家の居住は確認できず。(未反映)

以上